

P2-005

クッキング体験教室に参加した父親の食事作りの実態と教室参加後の影響

高瀬 園子¹⁾、西沢 義子¹⁾、松尾 泉¹⁾、尾崎 麻理¹⁾、石岡 真移子²⁾、葛西 静男²⁾

弘前医療福祉大学 保健学部 看護学科¹⁾、
弘前医療福祉大学 短期大学部 別科・調理師養成・1年課程²⁾

【目的】

父親の家事育児を促進させる支援として、子育てに関する講座や教室は開催されているが、家事役割に関する教室は少ない。そこで、本調査では父親のためのクッキング体験教室を開催し、参加した父親の食事作りの実態と教室への参加が父親に及ぼす影響について明らかにすることを目的とした。

【方法】

対象は A 地域に住む幼児がいる共働き世帯の父親で、本調査の協力に同意が得られた 6 名である。教室の概要は、食育に関する話、調理実習、家族での試食、片付けである。教室参加 1 か月経過後に半構成的面接を実施し、質的記述的方法を用いて内容分析をした。本研究は弘前医療福祉大学倫理委員会（承認番号：2019-7）の承認を得て実施した。

【結果】

1. 父親の日頃の食事作りの実態

体験教室に参加した父親の家庭では、主に【妻が食事作りの役割を担う】ことが多いが、共働きのため父親も【結婚や子育てをきっかけに食事作りをする】【出来る範囲で食事作りに参画する】【簡単にできる食事を作る】【子どもの食生活に気を付ける】といった食事作りと子育てを行い、夫婦で協力していた。

2. クッキング体験教室参加による変化

クッキング体験教室前後で、父親の主な家事役割としての食事作りに大きな変化はみられなかったが、4 名は教室で習った料理の一部を家庭で実践していた。教室に参加した父親は【栄養バランスを意識した調理方法を知る】【食事作りの楽しさを実感し意欲が高まる】ことで、【休日を利用して食事を作る】ことを実践していた。また、食事作りを体験することで、【料理の大変さと妻の大変さを実感する】とのことであった。一方、普段料理をする、多忙のため食事作りが出来ないといった父親は【教室参加後も食生活や食事作りに変化がない】ことが示された。

【考察】

父親は教室に参加したことで、食事作りの意欲が高まり、参加者のなかには教室で習った料理を家庭でも実践していたことから、教室の開催は、父親の食事作りの促進につながる可能性が示された。父親は子どもの食生活に気を付けていたことから、教室に参加し野菜の調理方法について知識を得ることは、普段の簡単な食事作りから栄養バランスを意識した食事作りへと影響を及ぼすのではないかと考えられる。今後、父親が継続して食事作りを実践するための支援として、栄養バランスを意識した簡単な調理方法を学ぶことが出来る教室の開催の必要性が示唆された。